

# こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2019年9月

第65号

## 主な予定

### キノコ観察会

10月20日(日)

10:00~12:00

### 柏歴史クラブ見学

10月26日(土)

### スタンプラリー

11月24日(日)

9:30~15:30

### 日本造園学会関東 支部見学会

11月24日(日)

## アギスマレ発見!

城戸 博行

この度、こんぶくろの森でアギスマレというスマレを新たに発見することが出来ました。アギスマレは、ツボスマレという比較的よく見られるスマレの変種で、ツボスマレとは花後に葉形が顕著なブーメラン状になる点が異なります。千葉県内で数を減らしており、2017年に千葉県の絶滅危惧種に指定されています。



アギスマレ



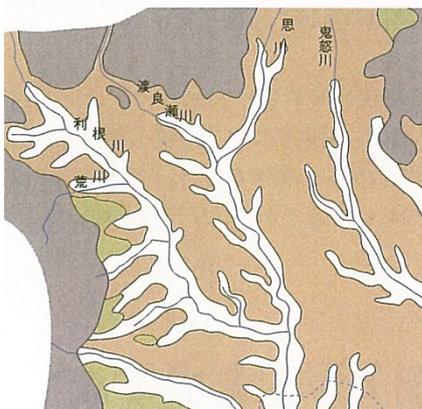
ツボスマレ

こんぶくろの森には、冷温帯遺存植物が残されていると言われていいます。とは言え、冷温帯植物とは一体どんな植物なのか、冷温帯の時期とは具体的にいつのことで、何故こんぶくろの森にそれらが残されているのか、ほとんどの方はよくわからないというのが正直なところではないでしょうか。これらを解説しつつ、何故こんぶくろの森にアギスマレが生育していたのか、仮説を述べたいと思います。

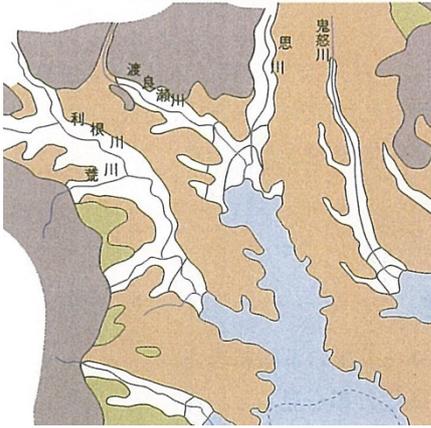
こんぶくろ周辺が冷温帯だったのは、今より7°C温度が低かった氷河期と呼ばれる時期のことです。一番新しい氷期は7万~1万年前まで続きました。その時期は海水面が今より低く、東京湾や利根川も陸地でした。その時期から現在まで絶滅せずに残ることが出来た植物がこんぶくろに現存する冷温帯遺存種です。現在ではそのほとんどの生育分布は、茨城県北部より上のブナ帯と呼ばれる地域にまで北上しています。

それから時代が進み6千~5千年前になると、今度は温暖化が進み現在より2~4°C温度が高くなり、冷温帯植物は生育できなくなりまし

立川期(1.8~2万年前)



縄文海進(5~6千年前)



た。縄文海進の時期で海水面が上昇しており、現千葉県は海に囲まれていました。この時期にほとんどの冷温帯植物は千葉から絶滅しています。

こんぶくろに冷温帯遺存種が残った理由は大きく2つあると考えます。まず、①縄文海の時期に海に没しなかったことが挙げられます。地図から海進の時期でも野田市から柏市の狭い区域が本土とつながる回廊であったことが読み取れます。海に没しなかった区域は、幅わずか数kmの狭い区域で、こんぶくろはその中にあり遺存種の避難所となることが出来ました。そして、②湧水が周辺地域を冷やすクールアイランドとして機能し、温暖期にも現存する冷温帯遺存種が生き延びられたことが考えられます。こんぶくろより北に位置する野田市側ではなく、こんぶくろに多く遺存種が残るのは、湧水地であることが大きな要因と考えるのが妥当です。この2つの偶然が重なることで冷温帯遺存種がこんぶくろに残されました。

アギスミレを図鑑で調べると「あまり標高の高くない冷温帯の貧栄養な過湿地に適応したツボスミレの変種で、花後に葉形がブーメラン状になる」とあります。

こんぶくろは、最終氷期に「あまり標高の高くない冷温帯」だった時期があり、貧栄養な湧水による「貧栄養な過湿地」が長らく保たれてもきました。そして発見したスミレの葉形は大きく湾入しておりブーメラン状と言ってよい形で、アギスミレの条件をすべて満たしていました。とはいえ、ツボスミレでも葉形に湾入がつよい個体変異があり、アギスミレとしてよいか判断に迷いました。

そこで、まず周辺分布を確認してみたところ、千葉県では数を減らしていますが茨城県では北にいくほどに多く確認されており分布の連続性がありそうということがわかりました。また、話が専門的になりますが、植物群集という概念でもアギスミレの存在が示唆されました。植物群集とは同じような環境に共通する植物種をリストにしてラベル付けしたものです。現在のこんぶくろの湿地環境は「オニスゲーハンノキ群集」という名前で括られる暖温帯沼沢林特有の植物相を持っています。ですが、こんぶくろに残された遺存種リストから遺存種が繁茂していた時期には「イヌツゲーハンノキ群集」と呼ばれるブナ帯と接する場所にみられる冷温帯沼沢林の植物相であったと推測できました。「イヌツゲーハンノキ群集」を特徴づける種がこんぶくろにはほとんど生育していますが、確認できていない種の1つにアギスミレがありました。その為、アギスミレも生育している可能性が高いと考えることができました。

最終的には、千葉県中央博物館・植物学研究科の天野誠先生に同定をお願いして、今回のアギスミレ発見をご連絡する運びとなりました。上述の通り、アギスミレはこんぶくろを特徴づける新たな植物と言えると思いますので、大事に保全してください。

ただ、保全には「貧栄養な過湿地」を保つ必要がありますが、現在こんぶくろ池では湧水が減り富栄養化が進んでいます。遺存種が在り続

けることを可能とした環境が、今日この時代に失われようとしています。こんぶくろ池へと流れる水は浄化槽で浄化しきれておらず、景観は保ていても、こんぶくろ本来の湿地保全は出来ていません。事実、この数年だけでもいくつかの生物が既に姿を消しています。

実際に湧水は十分に湧き出しておらず、その対策は非常に困難です。しかし、ただ呆然としていれば数万年の歴史がこの時代に途絶えます。その重みを胸に、現状を正しく認識し、危機意識を抱きつつ、科学的根拠に基づく対応策の模索を続けてくださいますようお願いいたします。

出典：平成18年度千葉県立関宿城博物館 企画展図録 利根川東遷と関宿藩  
フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』 ツボスミレ

## 8月の活動報告

8月3日(土) 18:45~21:00

T-KIDS シェアスクールあそまなび大作戦！  
夜の昆虫観察会

萩原 秀夫

今年も T-SITE にある子ども向けの学び場である T-KIDS シェアスクールと、夏休み企画「あそまなび大作戦！2019」の講座を開催しました。

昨年、一昨年は「カブトムシの観察会」を行い、それまでNPO 独自で行ってきた観察会を T-KIDS の講座の一つとして集客をお願いしてきましたが、近年こんぶくろの森のカブトムシが激減し、せっかく早朝から子どもたちに集まってもらってもカブトムシを観察できない可能性が高いことから、今年は6月頃より T-KIDS と相談しながら、ライトトラップ、糖蜜トラップを使った「夜の昆虫観察会」を行うことになりました。

昨年のカブトムシの観察会でも、普段入ることのない薄暗い早朝の森に分け入るワクワク感は、子どもだけでなく大人にも冒険気分を味わってもらえて好評であったことから、昆虫観察会も昼間ではなく夜にこだわりました。この企画については NPO としても初めての経験であり、千葉県昆虫談話会の方々の多大なるご協力により実現したものであり、この場を借りてあらためて御礼申し上げたいと思います。

外でのイベントですので毎年天気は心配ですが、幸いにも天気には恵まれ、まだほんのりと明るい 19:00 頃から、談話会の斉藤さんより、観察会にあたっての注意事項の説明、危険生物の紹介から始まり

ました。子どもたちは早くもオオスズメバチの標本に興味津々でした。



観察会にあたって注意事項の説明：千葉県昆虫談話会 齊藤講師

説明が終わる頃にはすっかり暗くなり、いよいよ森の中へ。2つのグループに分かれて、ライトトラップを設置している弁天池手前と、こんぶくろ池までそれぞれ移動しました。



ライトトラップの観察：弁天池付近

最初はなかなかライトトラップに虫や蛾が集まってきましたが、それでも子どもは一生懸命にカナブンなどに触ろうとしていたのを見て、楽しんでくれて良かったとホッとしました。糖蜜トラップをかけるとすぐに虫が寄ってきたり、弁天池の樹液の出るクヌギの木にはカブトムシのオスが2匹、メスが4匹もいて、子どもたちは大喜び！やっぱりカブトムシは大人気でした。

3歳や5歳の小さい子供もいて、途中で眠くなるのではないかと心配していましたが、2時間の大満足の観察会を終えてもまだみんな目をキラキラとさせて管理棟前まで戻ってくると、サプライズ企画として、中川将さんが自宅で育てているカブトムシをつがい子どもたちにわけてくれるということで、くじ引きを行いました。全員に差し上げることはできませんでしたが、ほぼ全ての子どもたちがお土産をもらってうれしそうに帰って行きました。中川さんどうもありがとうございました。

後日 T-KIDS からは、本イベントが夏休み上半期の企画の中で、第5位であったとの連絡をいただきました。

NPOで行ったアンケートでも、「カブトムシ、トンボ、セミに触れた事が印象に残った。」とほとんどのお子さんがコメントしており、普段、生き物に直接触れる機会が少ない状況で、触って自分ごどのように感じられたか、良い機会となったようです。一時にトラップにかかった虫をたくさん観察でき、夜の森にいかにも多くの生き



ライトトラップの観察：こんぶくろ池前

物があるか自分の目で確認できてご両親共々楽しそうでした。ご家族で旅へ出かけた時には、日中だけでなく、夜の森も訪れてホテルをはじめ様々な生き物を五感で観察する、きっかけ作りができたように思います。



カナブン



クルマスズメ：背中に白い筋



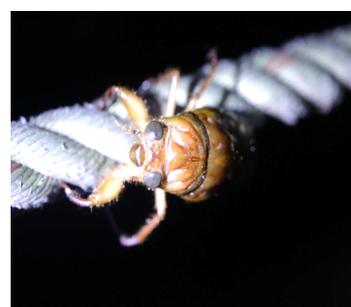
ウスバカミキリ



ミンミンゼミ



ハグルマトモエ



セミの幼虫

写真：藤原 俊和

## NPO 活動総合保険について

山上 薫

ボランティア活動中は、何よりも安全第一で無事故が最善ですが、万が一、事故が起こってしまったときに備えて、NPO では保険に加入しています。その内容についてお知らせします。

### (1) 保険の構成

- ① NPO 団体傷害保険
- ② NPO 賠償責任保険

(別に、イベント等の一般参加者に付保する「レクリエーション傷害保険」は、イベント等の都度加入しています。)

### (2) 保険の主な補償内容

- ・ 上記①では、NPO で活動中に会員、ボランティアスタッフ等がケガなどした場合、補償されます（補償内容：死亡 500 万円、入院日額 5 千円他）。

活動日の活動、契約当番、自主当番、案内等、すべての NPO 活動が対象となります。

- ・ 上記②では、NPO で活動中に会員が誤って第三者にケガなどをさせ、賠償責任を負う場合、補償されます（補償内容：対人 2 億円他）。

例えば、チェーンソーによる伐採中、誤って来園者にケガをさせたり、走行中の自動車を破損させたりした場合、補償されます。

- ・ 会員が活動日等に、自宅と活動場所との間で、徒歩・自転車・自家用車による往復途上に事故に遭ったり、事故を起こした場合も、補償されます。
- ・ イベント時に会員の過失で一般参加者にケガを負わせてしまった場合、賠償責任保険で治療費、慰謝料等の補償があります。
- ・ 食中毒については特約で補償されますが、「熱中症」は保険構成上、補償対象外です。

以上

## 9 月理事会

2019 年 9 月 7 日（土）10:00～12:00

出席理事：岡本、萩原、上田、北田、中川、藤原

審議検討事項

### 1. 柏市への申入れ事項(8/29)についての結果報告（中川）

- ・ 「2019 年度こんぶくろ池公園維持管理業務委託」の 4/1～7/31 の 4 ヶ月間の実績報告を行い、柏市側より、「十分な活動を行っていただいていることが、大変よくわかった。今後もよろしく願います。」とのコメントあり。
- ・ コリドーエリアの千葉県より柏市への移管について、移管の可能性は非常に高そうな様子。「年 2 回程度の下草刈り作業（高木の枝払いは含まず）であれば、受託を前向きに検討したい。これに伴い、刈払機等の道具類及び、新会員・サポーターの獲得の面での支援も願います。
- ・ 会員募集のための「公園作り・サポーター講座」を 12 月 8 日（日）10:00～12:00 で開催する旨を伝え、柏市は 11/15 の広報かしわに掲載する方向で広報部門と調整する。

- ・ 昨年度は11月にアドバイザー会議、3月に活動報告会と4ヶ月間に2回の会議があり、市への質問および要望は同じような内容であったため、緑政課内では、今年度はこの2つの会議を統合する形で年1回の開催にしても良いのではないかと、という意見も出ている。

→本来アドバイザー会議はNPO発足以前より、学識経験者から今後の公園整備の参考意見を伺う場であり9月頃に行われているもの。一方活動報告会は3月に千葉大、東大が持ち回りで開催しているものであり、性格が異なるため統合は不可。そもそも官学民の3者が一堂に会する場が年に2度でも少ないという意見もあり。

- ・ アドバイザー会議は11月に開催するよう柏市に調整を依頼する。議題案については、
  - この1年のズミエリアの整備状況を見ていただき、さらにアドバイスをいただく。
  - 里山萌芽林の保全を進めるにあたり、具体的にどのような伐採作業等を進めていくかのアドバイスをいただく。
  - 東側道路予定地伐採後、こんぶくろの森を乾燥化等からどう守っていくかのアドバイスをいただく。
- ・ こんぶくろ池自然博物公園の整備計画については来年度中に策定予定であり、将来像等の議論についてはそれまで待つてほしいとのこと。

## 2. キノコ観察会(10/20)・スタンプラリー(11/24)の準備状況の確認(北田)

- ・ キノコ観察会当日の役割分担表を作成(北田)合同活動日でもあり、調査班中心に行う。  
(9/15「広報かしわ」に掲載、9/16参加申込み受付開始)
- ・ スタンプラリーは引き続きクイズ、工作等のイベントを検討。
- ・ 両日ともセンコーに駐車場を貸してもらえるよう依頼(北田、岡本)

## 3. NPO 設立 10 周年にあたり

- ・ シンポジウムについては、10周年の時期にこだわらず再検討。
- ・ 10周年記念誌についても、10年間の調査データ、活動記録、会計データ等を整備し、後世に残すことを目的に取り組む。

## 4. 刈払機講習会およびチェーンソー作業時の安全装備の確認

- ・ 北田さんを講師として刈払機の安全講習を行う。
5. 行事予定表（藤原さん作成）の運用について
- ・ 事務所内（パソコン周辺）及び外の掲示板に掲載し、管理当番が確認できるようにする。
6. 当NPOにて常備すべき医薬品について
- （ハチ、マダニに刺された時薬、傷テープ等常備品の見直し）
- ・ 年に一度は常備薬の使用期限、在庫確認を行う。
  - ・ 山下さんの協力を得て、常備薬リストを作成（上田）

---

## 編集後記

無事に夏のイベントも終わり、今年も暑い夏がやっと過ぎていくのかと思いきや、9月になっても残暑が厳しくクラクラする毎日です。また、先日の台風では、森の中の木が何本か倒れるなど被害が出ていました。しかし、倒れてはいないものの危険な木や枝があるかもしれませんので、園路を歩く際はみなさん気をつけるとともに、そのような木を発見した際はご連絡ください。

さて、秋にもまた、キノコの観察会やスタンプラリーなどイベントを企画しています。定例の調査活動や里山活動はNPOにとって大切な公園管理・整備活動ではありますが、地域活動の一環としてのイベントについてもできる範囲で引き続き行なっていきたいと思っていますので、ご協力よろしくお願ひします。

また、今年度はNPO発足10周年でもあります。理事だけではアイデアも行き詰ってしまいます。思いつきでも結構です。どしどしご意見、アイデアをお待ちしています。（萩原秀夫）